



ブドウの革新的技術「拡大型根域制限栽培・広島仕立て」の現場定着が進む
(農事組合法人世羅幸水農園)

産地振興に貢献する試験研究

試験研究機関は、本県農業の生産振興を図るうえでの技術問題の解決に必要となる革新的技術の開発を担っている。生産現場における問題を迅速かつ効率的に解決するためには、試験研究機関は、技術的視点から行政・団体などの生産振興部門との密接な連携を強める必要がある。

新規の試験研究テーマの設定は、前年度までは「農業技術問題懇談会」・「技術革新の動向」・「農業施策の方針からの提起問題」の3つを基本に行っていた。本年度からは上記の視点に立ち、行政施策との整合性を最重視し、さらに「各種振興協議会等からの提起問題」を新たな検討項目とするように農業関係試験研究推進要領の改正案が提出された。

産業として自立できる園芸農業の確立のために、「企業の経営体を中心とした一億円園芸産地の重点

的育成」が平成22年達成目標の行政施策として掲げられ、果樹35、野菜41、花き14、計90の産地育成が現在進行中である。既存産地の拡大、新産地の育成のための技術開発は、企業の農家や自立志向農家の技術の高度化および経営の改善に貢献するものでなくてはならない。同時に、産地を持続的に発展させるためには、これらを取り巻く中小農家の営農の維持に寄与する技術開発の推進も産地振興に不可欠である。

さらに、一億円産地育成・強化のための「行政施策を推進達成するテーマ」に加えて、今後の産地振興上想定される「行政施策上の課題先取り型のテーマ」にも積極的に取り組むことが、地域農業の推進に関わる試験研究機関の大きな責務であると考える。

果樹研究所次長 那波邦彦

粉碎モミガラを利用したイチゴ高設栽培の低コスト培地

イチゴ栽培の軽作業化が望まれており、近年、様々な高設栽培が開発されています。しかし、これまでのシステムでは10 a当たり300～600万円と高価でした。そこで、新たに開発した低コストの高設栽培システムにおける、軽量で安価な培地について検討しました。

培地にはライスセンターなどで排出される粉碎モミガラを用います。粉碎モミガラはカリ含量が多く、塩基バランスが悪いため、野積みで雨ざらしにするか、たっぷりのかん水によって過剰なカリを除去します。粉碎モミガラ6割に対してピートモス4割を混合し、培地1リットル当たり約2.5gの苦土石灰を加えます。施肥は液肥によって行い、株当たり窒素成分で約4gを全栽培期間にわたって土壌溶液濃度が均等になるように施用します。

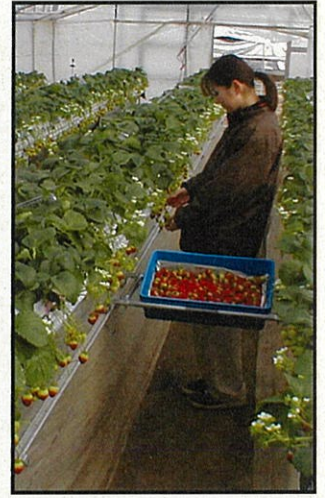
この培地を利用するに当たっては、培地内の水の横浸透が少ないので、かん水チューブの下へ根を配

置すように定植するか、栽培ベッドの幅を狭い形状にする必要があります。

(園芸研究部)



培地の断面



収穫作業の様子

種子冷蔵処理によるトルコギキョウのロゼット化防止

県内の中北部地域では、価格が安定している秋出しのトルコギキョウの栽培が増加しています。種子冷蔵処理によってロゼット化が簡単に防止でき、端境期の出荷が可能になったことと、有望な品種をいち早く選定したことが主な要因です。

種子冷蔵処理は、①晩性品種を用い、②10℃で35日間暗黒の状態冷蔵するという2つの基本技術から成り立っています。播種前に冷蔵処理を行う場合は、水を張った容器に種子を入れて冷蔵します。処理後にゲル剤を用いて播種しますが、あらかじめゲル剤と混合した種子を冷蔵しても効果は同じです。また、種子を播種し十分に灌水した後に、セル成型トレイごと冷蔵してもかまいません。処理終了後は、涼しい場所で通常の育苗管理をします。

種子冷蔵処理をした種子は、発芽直前か一部で発根を始めている状態なので、育苗期間は30日程度と通常よりも10日間程度短くなります。この育苗期間の短縮技術は他の作型にも応用できます。



トルコギキョウのロゼット株(上)と
種子冷蔵によって開花した株(下)

(園芸研究部)

有望な極早生温州ミカン「広島7号」

広島県の極早生温州ミカンは、九州の産地に比べて出荷時期が遅いため、早期に出荷できる高品質な極早生品種が求められています。

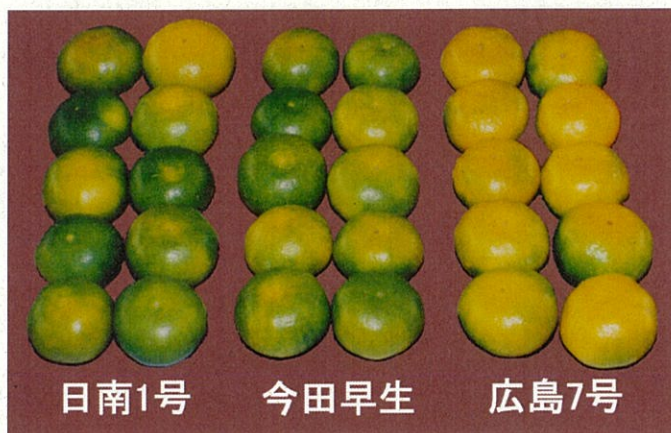
「広島7号」は、「今田早生」の珠心胚実生から選抜した品種で、県内で最も多く栽培されている極早生品種の「日南1号」に比べて、糖度が高く、着色および減酸が早いいため、20日程度早く出荷でき、有利に販売できるものと期待されます。

なお、「広島7号」の特徴は、つぎのとおりです。

- 着色は、9月4～6半旬から始まり、「今田早生」、「日南1号」に比べて1～3半旬早い。
- 果実糖度は、同時期の「今田早生」、「日南1号」に比べて、同等ないし1度高い。
- クエン酸含量は、同時期の「今田早生」、「日南1号」に比べて、0.2～1.2%低く、減酸が早い。
- 枝にトゲが発生する。
- 慣行の摘果法では小玉になりやすい。

現在、果樹研究所では「広島7号」の育苗法、生産安定の試験に取り組むとともに、種苗登録申請にむけた特性調査を実施しています。

(常緑果樹研究室)



果実の外観

ヘアリーベッチを利用した生産調整水田の省力管理

ヘアリーベッチは生育が極めて旺盛なマメ科の一年生植物です。また、アレロパシー物質を多く生じることから、他の雑草を抑制する効果が高いといわれています。

そこで、生産調整水田の雑草を省力的に管理するためのヘアリーベッチ利用について検討しました。その結果、ヘアリーベッチを10月上旬～11月上旬に3kg/10a播種すると、翌年4月から5月に生育が盛んとなり、冬春雑草の発生をほぼ完全に抑えます。7月以降は枯死した植物体が敷草のようになり、その後の雑草の発生を抑制します。また、排水良好な条件では7月中旬まで生育が持続し、夏雑草も十分に抑制できます。種子代は10a当り約2,500円と比較的安価であり、播種後はほとんど管理が不要で、枯死後のすき込みも簡単です。

ヘアリーベッチは平成12年度から地力増進作物として認定されており、広島市では景観作物としても認定されています。広島市安佐南区沼田町吉山地区で

は、休耕田の省力管理を目的に昨年より導入を始めています。地元ではその簡便さから更に期待が高まっており、本年は約2haで作付けされています。

(作物研究部)



ヘアリーベッチの生育状況

ひろしまの在来作物(23) — 鮮緑色で縮みの細かいパセリ「寺家在来」 —

広島には古くからパセリが栽培されている。品種はパラマウントから育成された「瀬戸パラマウント」と在来種から選抜した「鯉城」がある。「寺家在来」は「鯉城」から選抜されたものである。パセリは暑さに弱いため、広島市近郊では主として秋～春に栽培されていたが、1970年代に芸北町で盛夏期の栽培が試みられ一部が定着した。その中で葉色がやや薄く縮みが細かく耐暑性の強い数株が見つかり、当時、普及員の指導でこれらの中で採種が繰り返されながら栽培が継続された。その内の数株を先輩が西条へ持ち帰り、数年間自家採種したものを「寺家在来」として収集した。葉色は「鯉城」が濃い緑色であるのに比べてやや淡い鮮緑色で、縮みは「鯉城」より細かく品質は極めて良い。

ジーンバンクにはヨーロッパ産のSELMA-PARAという優れた品種があるが、「寺家在来」はこれよりも少し葉色が濃く縮みも多い。パセリは小さい株に低温感応性は無いが、栽培を半年以上続けた株が低温に遇えば抽苔する。「寺家在来」はガラス室で網掛け栽培すると全く種子が採れない。つまり自家不和合性が極めて強いため、採種は複数の株間で交配する必要がある。人工交配すると立派な種子が採れ、発芽率も高い。

(ジーンバンク技術主幹： 船越 建明)

(財)広島県農業ジーンバンクが収集した貴重な県内遺伝資源(種子)をシリーズで紹介します

◆刊行物案内

- 平成13年度試験研究実施計画概要(4月)
- 平成12年度業務年報(6月)
- 平成13年度研究成果情報集(6月)

◆農業技術センター一般公開のお知らせ

日時：9月6日(木) 9：30～16：00

テーマ：「技術開発がささえる夢ある農業」

皆さんお誘い合わせのうえ、どうぞお越し下さい。職員一同、心よりお待ちしております。

◆農業技術センター 7～9月見どころ案内

- 作物研究部：湛水直播き水稻の生育、地被植物類の生育開花、大豆(8月上旬)、ソバ(9月中下旬)の生育開花状況。
- 園芸研究部：アスパラガスの全期立茎栽培、トマトの少量培地栽培、大型ピーマンの結実状況、バラの新整枝法。
- 環境研究部：トルコギキョウ栄養欠乏症実証(8月上中旬)、同ワケギ(9月上旬)、不耕起連続栽培ホウレンソウの生育状況(7月下旬、8月下旬)、キュウリの環境にやさしい病害虫防除法(8月上旬から)。
- 生物工学研究所：アスパラガス育成品種「グリーンフレッチェ」の生育状況、薬培養で育てた水稻育成系統の生育状況。
- 果樹研究所：落葉果樹の優良品種が収穫期を迎えます。モモ「なつおとめ」(7月中旬頃)、ブドウ「安芸クイーン」(8月下旬頃)、ナシ「あきづき」(9月中旬頃)。

※この他、視察、見学等は常時、全所で受け付けています。どうぞ見学においでください。

発行 広島県立農業技術センター (企画情報部) 〒739-0151 東広島市八本松町原6869 TEL 0824-29-0521 FAX 29-0551 ホームページ http://www.arc.pref.hiroshima.jp/	編集後記 フランスボージョレー地方のワイン樽にできる酒石酸の結晶の構造は右型のみ。パスツールが発見。人工合成した酒石酸は左型と右型が同量できるという。神秘のベールがまた現れた。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

— 組織と所在地 —

農業技術センター 本 所	(総務部、専門技術員室、企画情報部、作物研究部、園芸研究部、環境研究部、生物工学研究所細胞工学研究室、同育種研究室)
" 果樹研究所	〒729-2402 豊田郡安芸津町三津2835 TEL 0846-45-1225 FAX45-1227 (管理課、常緑果樹研究室、落葉果樹研究室)
" " 柑橘研究室	〒729-0321 三原市木原町463 TEL 0848-68-0131 FAX68-0181